

牛頭天王をめぐる

2017.10.09
草 雲

[1] 津島神社

場 所：愛知県津島市神明町 1

祭 神：(牛頭天王)

訪問日：2017年3月25日(土)

備 考：織田氏は当社を氏神として崇敬し、社殿の造営などに尽力した。織田氏の家紋の木瓜紋は当社の神紋と同じである。厄除けの神とされる牛頭天王を祀ることから、東海地方や東日本を中心に信仰を集め、各地に分社が造られた。全国約3千ある津島神社・天王社の総本社である。中世・近世を通じて「津島牛頭天王社」(津島天王社)と称した。明治の神仏分離の際、建物・祭事などにおけるあらゆる仏教的な要素は廃され、祭神を建速須佐之男命(たけはやさのおのみこと)とし、社名から牛頭天王の名を外して津島神社とした。



【拝殿】



【楼門】

[2] 八坂神社

場 所：京都府京都市東山区祇園町北側 625

祭 神：(牛頭天王)

訪問日：2017年3月26日(日)

備 考：元の祭神であった牛頭天王が祇園精舎の守護神であることから、「祇園社」、「祇園感神院」等と呼ばれていたが、明治元年の神仏分離令により「八坂神社」と改められた。



【西楼門】



【鳥居と南楼門】

牛頭天王をめぐる

2017.04.29
草 雲

[3] 津島神社

場 所：岐阜県恵那市明智町杉野 549

祭 神：(牛頭天王)

訪問日：2017年4月29日(土)

備 考：日本大正村駐車場を出て、新町交差点を右折した突き当たりの山の上に、津島神社があった。神社への登り道は獣道ほどのもので見つけ難い。近くのガソリンスタンドの人に聞いてやっと分かった。石段の途中に石の手洗い槽があった。



【神社へと続く長い石段】



【津島神社本殿】

[4] 津島神社

場 所：岐阜県恵那市岩村町飯羽間 2007

祭 神：(牛頭天王)

訪問日：2017年5月4日(木)

備 考：国道257沿いに津島神社の鳥居があった。鳥居から津島神社まで真っ直ぐに参道が延びている。参道は100m以上ある。神社は三方を山に囲まれた場所に建つ。



【津島神社鳥居】



【津島神社】

牛頭天王をめぐる

2023.05.15
草 雲

[5] 津島神社

場 所：岐阜県恵那市長島町久須美 1038
祭 神：(牛頭天王)
訪問日：2017年5月5日(金)
備 考：鳥居から神社本殿までは100m以上ある。
神社本殿の石段を登り、「津島神社」と書かれた赤い鳥居をくぐる。
神社本殿はこの赤い鳥居に対して横向きに建つ。



【津島神社鳥居】



【津島神社本殿】

[6] 津島神社

場 所：岐阜県恵那市大井町
祭 神：(牛頭天王)
訪問日：2023年5月12日(金)
備 考：JR恵那駅から岩村方向に向かって進むと、直ぐ左手にバローが見える。バローの直前を左折して、蜂屋医院の前の道を通り、100 m程のところに、津島神社があった。阿木川沿いである。神社と言うと、森の中や木に囲まれているイメージがあるが、木は全くなく、ベンチが置いてあり、公園のような所だった。神社名が書かれた看板や石碑等を探したが見つからなかった。



【津島神社】



【津島神社】

牛頭天王をめぐる

2023.05.15
草 雲

[7] 津島神社

場 所：岐阜県恵那市上矢作町

祭 神：(牛頭天王)

訪問日：2023年5月12日(金)

備 考：自家用車で恵那市街から岩村を通り、国道418号線沿いの上矢作小学校を目指した。上矢作小学校まで来ると、更に、国道418号線を進め、横道公民館を目指した。少し行くと小さな街並みに入った。国道の右側のお店の人に聞くと、国道の左側の山の上に津島神社があると教えてくれた。車で狭い道に入り、行けるところまで行って、道の脇に駐車した。近くの家の人に、津島神社までの道を聞き、後は、登山だった。15～20分程、山道を登ると、山頂に津島神社が現れた。難攻不落の山城を連想させる地形であった。山頂直前には108段の石階段があった。この山頂まで、どのようにしてこれら階段の石を運んだのか疑問に思った。



【津島神社への山道】



【津島神社への石階段】



【津島神社本殿】



【津島神社本殿】

牛頭天王をめぐる

2023.05.15

草 雲

[8] 津島神社

場 所：岐阜県中津川市駒場 746

祭 神：(牛頭天王)

訪問日：2023年5月11日(木)

備 考：津島神社は加藤製作所の近くにあった。参道の石段の下の看板に、次のことが書かれていた。

1661年以前に、尾張国の津島神社より勧請(分霊)を受け、創立されたと伝えられ、駒場地域の産土の神として崇敬されています。御祭神は力強く、勇敢で、

疾病(伝染病)、農村では害虫、稲虫などを退治する神様をお祭りしています。8月になると、中津地区の中学生を中心に、提灯飾りの準備が始まり、8月14日、15日の祭りにはワイショイ、ワイショイの掛け声と太鼓を打ち響かせ、

津島神社に参拝し、お祓いを受けます。子どもたちが、元気に参加する神社の伝統行事として受け継がれています。中津西地域「歴史と文化」伝承委員会



【津島神社の鳥居と石階段】



【津島神社本殿】

[9] 八布施神社

場 所：岐阜県中津川市福岡八布施 2541

祭 神：(牛頭天王)

訪問日：2023年7月17日(月)

備 考：2023年は、7月15日(土)が宵祭り、7月16日(日)が例大祭(たたき祭り)であった。毎年、榊山神社の宵祭りと同例大祭(たたき祭り)の一週間前に行われている。榊山神社(祇園牛頭天王社)を分霊、勧請したものである。明治初年の神仏分離令により、「牛頭天王社」から、本社と同じ「榊山神社」に改称した。昭和に入り、この地区の地区名を入れて「八布施神社」となった。



【八布施神社の鳥居と石階段】



【八布施神社の本殿】

牛頭天王をめぐる

2023.05.15
草 雲

【10】安弘見神社（あびろみじんじゃ）

場 所：岐阜県中津川市蛭川中切

祭 神：（牛頭天王）

訪問日：2023年5月11日（木）

備 考：自家用車で中津川市街から、JAひがしみの蛭川支店、蛭川郵便局を目指した。そこから、ひとつばたご蛭川店を目指し、少し進むと鳥居が見えてきた。杵振り祭りで有名な神社である。廃仏毀釈以前は、牛頭天王社と呼ばれていた。明治改元後、安弘見神社となった。杵振り踊りは、五穀豊穰を願い、踊ってきたものと伝えられる。また、「剣の舞」が転化したものだとも言われ、蛭川に伝わる南朝伝説（後醍醐天皇の皇子の宗良親王が蛭川でお亡くなりになった）に由来するものである。「杵振り踊り」の杵という漢字の中の牛と「牛頭天王」の牛とは、何か深い関係を感じる。



【安弘見神社の鳥居と石段】



【安弘見神社の鳥居と石段】



【安弘見神社の鳥居と石段】



【安弘見神社本殿】

牛頭天王をめぐる

2023.05.16
草 雲

【1 1】 榊山神社

場 所：岐阜県中津川市福岡

祭 神：(牛頭天王)

訪問日：2023年5月16日(火)

備 考：廃仏毀釈以前は、祇園牛頭天王社と呼ばれていた。明治改元後、榊山神社となった。16世紀初頭、広恵寺城は苗木高森に移った。氏神である飛天王の祭神も神輿で高森へ勧請しようとしたが今の榊山神社の地で神輿は全く動かなくなった。そこで供奉の者を打って進めようとしたが動かなかった。そのとき、「我は牛頭天王なり、高森に行くことあらじ、ここが主神に相応の地である。」という神託があり創立したと伝えられる。たたき祭りの起源はこの故事による。



【榊山神社】



【榊山神社本殿】

【1 2】 植苗木神社 (うえなえぎじんじゃ)

場 所：岐阜県中津川市福岡植苗木

祭 神：(牛頭天王)

訪問日：2023年5月15日(月)

備 考：廃仏毀釈以前は、飛天王(とびてんのう)と呼ばれていた。明治改元後、植苗木神社となった。福岡榊山神社の前社として由緒深い。奈良時代に、家童が「我は牛頭天王の神木なり」と口走った杉の苗を植え、社殿を創立したのが始まりであると伝えられる。「植苗木」の地名はここに由来する。代々、広恵寺城主家の氏神であり、後醍醐天皇の皇子の宗良親王も深く飛天王を崇敬し、「総社祇園牛頭天王」の八字を大書きし、扁額を奉られたと伝えられている。



【植苗木神社 (飛天王)】



【植苗木神社裏の杉】